平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（鳥羽市）の概要

５月６日（日）に鳥羽市神島の神島開発総合センターで「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、町内会や鳥羽磯部漁協、老人会、神島診療所や介護予防施設、旅館業や観光サービス業などに携わって、神島の活性化のために地域おこしに取り組んでいる島民の皆さん １２名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

○ 神島は、「潮騒」の舞台であり、これまでに５回映画化されているが、５ 作目が制作されてから、既に 27 年経っており、若い世代には、段々イメージが薄れてきている。神島の活性化のためには、もっと「潮騒」を活かしてほしいと考えており、是非６作目の誘致もお願いしたい。

○ 「古里の浜」は、自分たちの子どもの頃は、砂浜が続く美しい場所であったが、今は砂が無くなり、寂しい姿になっているため、国土保全という観点から、是非保全をお願いしたい。

○ 悪天候により、ケーブルが切れて、テレビやインターネットがつながらなくなった。特に島の漁業や観光業者、学校、診療所にとっては、インターネットがつながらな

いのは、死活問題であるため、早期の復旧をお願いしたい。また、危機管理の面からは、環境が厳しい地域では、情報網が１本だけでは問題である。

○ 今後離島振興法改正の動きがあるが、これに基づく支援メニューは、ソフト事業がないため、文部科学省や環境省の離島関係のメニューにも、適用できるよう、三重県からどんどん発信し、国へ働きかけてほしい。

○ 離島振興法の改正など、離島に注目が集まっているので、伊勢湾の離島が連携してそれぞれの島がつながって線となるような取組を検討してはどうか。

○ 神島は、島民みんなが親戚のような付き合いがあり、つながり・絆があるため、高齢者の介護や最期の看取りも地域のみんなで助け合えるような場所をつくりたい。今は、神島で生まれ、育っても最期は、島外の施設に入るしかないので、最期まで神島で地域の人に見守られて幸せな最期を迎えられる、そんな島にしたい。

○ 観光客からも津波が来たら怖いという話をよく聞くようになった。もしも災害の際に鳥羽市が被害にあって、すぐに助けに来ることが難しい場合に備えて、近隣の愛知県などと広域的な連携の仕組みが必要ではないか。

○ 災害、津波の際に子どもたちやお年寄りが避難できる拠点を、より高い場所に確保したい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○ 潮騒のモニュメントの製作や監的哨の修繕については、鳥羽市とともに県も予算化し、連携していくこととしている。次の映画化への動きについても、三重県の営業本部長として、しっかり働きかけをしていきたい。

○ テレビやインターネットについては、危機管理という面も含めて、事業者と一緒になって考えていく必要があるので、これまでの経緯や現状をよくお聞きして、対応していきたい。

○ 離島振興法の改正に伴い、適用できるメニューの拡大については、ソフト事業も含めて今後、国に政策提言していきたい。

○ 津波などの災害時の対応については、海上保安庁との連携も進めている。近隣県との広域連携も含め、具体的なことを決めて、またそういう情報についてもしっかり島民の皆さんと情報共有を図っていきたい。

○ 子どもたちの学校における防災については、今年度の県の機構改革で、「学校防災推進監」という防災を専門に担当する職員をおいたので、今後、安全な学校防災対策をしっかりやっていく。

港から会場までは、たくさんの大漁旗を飾り付けて、お迎えいただきました。